

令和 5 年

加茂市教育委員会10月定例会会議録

令和 5 年10月 3 日 開会

令和 5 年10月 3 日 閉会

加茂市教育委員会

## 令和5年加茂市教育委員会10月定例会会議録

令和5年10月3日、加茂市役所5階第1委員会室において、令和5年加茂市教育委員会10月定例会を開催した。会議の概要は、次のとおりであった。

### 1 会議に付した事件

- (1) 教育長職務代理者の指名
- (2) 会議録署名委員の指名
- (3) 会期の決定
- (4) 報告
- (5) 第29号議案 加茂文化会館運営審議会委員の委嘱について
- (6) 次期教育委員会期日の決定

### 2 出席委員（5名）

教育長 山川雅己君      1番 乙川智子君      2番 田邊俊樹君  
3番 藤田和子君      4番 太田正純君

### 3 欠席委員（0名）

### 4 説明のため出席した者（12名）

庶務課長 草野智文君  
学校教育課長 阿部一晴君  
社会教育課長民俗資料館長 有本幸雄君  
スポーツ振興課長勤労青少年ホーム館長 糸山太君  
庶務課課長補佐庶務係長 長澤敦君  
学校教育課課長補佐学事係長 茂野幸栄君  
社会教育課課長補佐公民館長 波塚一朗君  
社会教育課課長補佐図書館長 細貝秀樹君  
社会教育課課長補佐社会教育係長 中澤資裕君  
スポーツ振興課課長補佐兼温水プール館長兼温水プール管理係長 和田正利君  
スポーツ振興課スポーツ振興係長兼勤労青少年ホーム 丸山信宏君  
総務課課長補佐政策推進室長 小柳貴之君

### 5 会議の概要

午後1時30分 開会

〔開会の宣言〕

○教育長（山川雅巳君） 令和5年加茂市教育委員会10月定例会の開会を宣言する。

〔教育長職務代理者の指名〕

○教育長（山川雅巳君） 乙川智子教育委員の任期が令和5年10月2日で満了した。先般の市議会9月定例会にて再任承認の議決を経て、令和5年10月3日から4年間の任期で任命した。併せて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項に基づき、あらためて乙川委員を教育長職務代理者として指名する。

〔会議録署名委員の指名〕

○教育長（山川雅巳君） 3番 藤田和子君を指名する。

〔会期の決定〕

○教育長（山川雅巳君） 会期は本日1日に決定する。

〔報告〕

○総務課課長補佐政策推進室長（小柳貴之君） 「ニュージーランド視察について」を報告する。

市内児童生徒の異文化体験・国際交流の推進を目的として、英語圏で教育交流ができる都市を調査・検討している。令和5年8月19日(土)から8月24日(木)、加茂市国際交流協会会長と私の2名がニュージーランド・ノースランドにあるファンガレイ市のカモ地区を視察した。アメリカ、カナダ、イギリスと比較して費用面、移動時間等の条件が有利であること、30年程前に同地区にある「Kamo Rugby club」から加茂市あてに交流の申込があったこともあり、同じ地名をご縁として教育交流が可能か否かを探ることが主な趣旨である。

時差は日本より3時間進んでいるが、時差ボケになる程のものではない。往路は新幹線と飛行機で約22時間20分、復路は約19時間20分を費やした。南半球であり日本とは季節が逆になるため気温が低い。この時期に訪れるとなれば交流活動に何らかの制約が生じるかもしれない。

ニュージーランドにおける学校の修業年限は5歳から17歳までの13年間（1～13年生）である。小学校8年と高校5年または小学校6年と中学校2年と高校5年のパターンがあり、カモ地区には中学校がある。小中学校は国の所管となっており、校長が大きな決定権を持って学校を運営していることが特徴である。

視察先の Kamo intermediate school（中学校）は、11～12歳の7～8年生が在籍しており、生徒数は785人である。加茂市への訪問希望者は45人、7日間程度の滞在を希望しており、5日間を加茂市で交流し、2日間を東京などの観光に充てたいとのことであった。なお、費用は先方の保護者が負担するとの説明を受けている。

Kamo high school（高等学校）は、13～17歳の9～13年生が在籍しており、生徒数は約1,000人である。日本からも多くの高校生が留学し、カリキュラム、ホームス

テイ、アクティビティなどがある程度確立され、期間に応じて費用も提示されていた。業者によりランチが提供され、貧しい家庭への支援も行われていた。

ファンガレイ市は人口約5万人、うちカモ地区の人口は約1万人であり、ノースランドのリゾート地である。高い建物はなく、ラグビー場や羊の農場も見られた。ファンガレイ市長とも面会することができ、将来的に姉妹都市となれるような幅広い交流ができるような関係づくりができると良いとのコメントをいただいた。歴史博物館・図書館等も充実しており、加茂市の子ども達にも訪問して欲しいと感じた。

- 委員（乙川智子君） 日本では小学校から中学校へ、中学校から高等学校へ進学するシステムであるが、ニュージーランドのシステムを教えて欲しい。
- 総務課課長補佐政策推進室長（小柳貴之君） ファンガレイ市にはいくつもの特色ある高等学校があり、8年生まで小学校で過ごし9年生から高等学校に進む子どもがいれば、6年生まで小学校、7～8年生を中学校で過ごし9年生から高等学校に進む子どももいる。中学校を設置する目的は、小学校と高等学校に分けると年齢差が大きくなるため、中間の年齢で環境を変え、スムーズに高等学校の環境へ適応できるようにするためである。中学校の設置は地域によって異なっている。
- 委員（乙川智子君） カモ地区には中学校があるものの、カモ地区で小学校から高等学校へ直接進学したい子どもはどうしているのか。
- 総務課課長補佐政策推進室長（小柳貴之君） 8年制の小学校に編入することになる。進学先は比較的自由であるため、中学校・高等学校ともに「選ばれる学校」を目指し校長が努力している印象を受けた。
- 委員（乙川智子君） 高等学校の入学試験はどの様に行われているのか。
- 総務課課長補佐政策推進室長（小柳貴之君） 日本におけるいわゆる高校入試とは違い、小学校や中学校における定期試験の結果等を積み上げた成績を重視しているとの説明があった。
- 委員（乙川智子君） 教育システムが異なる国の子ども達が交流することは興味深い。
- 委員（太田正純君） ニュージーランドには日本でいう学区の概念がないのか。
- 総務課課長補佐政策推進室長（小柳貴之君） 学区という概念はないと思う。遠方からバスで通学している子どももいるようだ。
- 委員（太田正純君） 先方が求めている交流の具体的な内容を教えて欲しい。
- 総務課課長補佐政策推進室長（小柳貴之君） 日本語や日本文化を学習している子どもが多く、一定のコミュニケーションがとれる子どもが来日を希望しているようである。45人もの子ども達を受け入れることは加茂市の財政状況、宿泊施設の確保等を踏まえると困難であることを伝えた。交流の具体的な内容としては、英語を通じて加茂市の学校との交流を図ることを想定しているが、今後、学校教育課や校長会と協議していきたい。
- 委員（太田正純君） 費用は先方の保護者が負担するとのことであるが、どの程度負担してもらうことを想定しているのか。

- 総務課課長補佐政策推進室長（小柳貴之君） これも今後検討していくことになる。ホテルや旅館に宿泊してもらうのか、ホームステイを主とするのかによって費用が大きく異なる。先方と加茂市の負担割合も今の段階では決まっていないため、財政状況を踏まえて検討していきたい。
- 委員（田邊俊樹君） 同じ地名を縁として交流したいとのことであるが、先方は加茂市のことをどの程度知っているのか。同じ地名であること以外に加茂市と交流したいという決定的な理由があるのか。
- 総務課課長補佐政策推進室長（小柳貴之君） 加茂市と言うよりも日本という国に大変興味があり、交流を図りたいという意図が感じられた。日本との交流方法を探るなかで同じ地名である加茂市を選択したというイメージである。
- 委員（田邊俊樹君） 先方が希望する45人もの子ども達を一度に加茂市で受け入れることができなければ、三条市など近隣市町村と協力して受け入れることも考えられるか。
- 総務課課長補佐政策推進室長（小柳貴之君） まだ多くのことが決まっていない状況であり、可能性はゼロではない。
- 教育長（山川雅巳君） 加茂市としても交流したいという意思表示を先方に示したが、具体的な方法について関係機関と協議を重ねたい。
- スポーツ振興課スポーツ振興係長兼勤労青少年ホーム（丸山信宏君） 「令和5年度 第1回 加茂市勤労者青少年ホーム運営審議会について」を報告する。  
令和5年8月28日(月) (15:00～16:00)、令和5年度 第1回 加茂市勤労者青少年ホーム運営審議会を開催した。  
主な議事は「令和4年度利用状況及び事業報告について」等であり、全て承認をいただいた。  
なお、勤労者青少年ホームは利用者の減少、利用実態の変化、建物の老朽化等により令和6年3月末をもって廃止することについて承認をいただいた。これまでの教養講座及びクラブ活動については公民館事業として会場を移転し、引き続き利用していただくため、関係者と協議を重ねていきたい。
- 庶務課長（草野智文君） 「令和5年9月加茂市議会定例会・石川小学校議員視察について」を報告する。  
令和5年9月14日(木)から9月29日(金)に加茂市議会9月定例会が開催された。  
一般質問に対する答弁について、滝沢茂秋議員の「教育機関との連携について」に対し、市内の大学及び高等学校は勿論、市外の大学及び高等学校と連携し事業を展開しており、まちづくりに欠かせないものとなっていることから今後も積極的でありたい。海外との交流については、8月にニュージーランド・ノースランドにあるファンガレイ市のカモ地区の高等学校と中学校を視察、教育交流の可能性を探っている旨の答弁であった。森山一理議員の「旧加茂銀行、旧生田屋の建物をどう生かしていくのか」に対し、旧加茂銀行の建物は25人の相続人がいると令和4年度末時点で判明。寄付に関する同意が得られて初めてスタートラインに立つことができる。旧生田屋は現

地調査を実施、保存活用・除却など可能性を除外することなく来年度中に方向性を示したい旨の答弁であった。安武秀敏議員及び杉田優子議員の「広島平和記念式典への中学生派遣について」に対し、今年の式典に教育長、関係課長等と共に参列した。平和記念公園、慰霊碑、原爆ドーム等を視察して教育効果があると一致した。来年度以降の派遣に向けて検討する旨の答弁であった。

教育委員会委員の再任について、乙川智子現委員を再任することで承認を得た。

一般会計補正予算(第5号)は、放課後児童クラブの児童支援員を増員する経費(4,268千円)、加茂南小学校に学校看護師を配置するための経費(1,598千円)、旧生田屋の活用可能性を調査するための経費(3,212千円)などを増額補正するものであり、承認を得た。

令和4年度歳入歳出決算についても承認を得た。

また、9月28日(木)の市議会(最終日)終了後、午後から総務文教常任委員会による石川小学校の視察が行われた。9月に終了した本校舎耐震補強工事についての説明を行った。

○庶務課長(草野智文君) 「9月教育行政会議について」を報告する。

令和5年9月29日(金)(9:30~11:40)、9月教育行政会議を開催した。

主な報告及び協議事項は、学校教育課所管の放課後児童クラブについて、令和7年4月からの有料化及び民間委託に向けてのスケジュール案を確認した。

社会教育課所管の集落支援員制度について、10月1日付で加茂紙漉場の鶴巻さんを委嘱する準備が整ったことを確認した。

庶務課所管の学校適正化方針策定事業について、想定される学校再編後の増改築等に係る費用を試算したことを確認した。

○委員(太田正純君) 庶務課所管のスクールバス運営事業について、現在、スクールバスは庶務課、市民バスは環境課が所管している。運転手の人材確保が課題となっている現状、今後一体となって事業を展開することなどを考えているか。

○庶務課長(草野智文君) 小中学校再編に当たっては登下校の安全確保が重要な課題である。スクールバスの現状、今後の課題等を整理し、加茂市と関係民間事業者等による公共交通政策協議会に教育委員会(庶務課)も加わり、市全体の課題として認識し、課題解決に向けて取り組み始めたところである。

○委員(藤田和子君) 庶務課所管の障害者雇用について、9月26日(火)に開催された県央地区合同面接会において加茂市として9名を選抜、更にもその中から数名を選抜したうえで令和6年4月から雇用したいとのことであるが、9名の中に知的障がい者は含まれているのか。

○庶務課課長補佐庶務係長(長澤敦君) 県央地区合同面接会において加茂市に受験された方は身体障がい者11名、精神障がい者14名の計25名であり、加茂市が選抜したのは身体障がい者7名、精神障がい者2名の計9名であった。事前にハローワークが受験希望者と面談を行い、受験希望者の特性、適応性を見極め、面接会に出席する企業・官公庁との面接を斡旋するようなシステムがあるようだ。

結果的に今回は加茂市の面接を希望する精神障がい者がいなかったということである。

- 委員（太田正純君） 庶務課所管の学校給食管理について、小中学校の再編を見据え、更に民間委託・指定管理を検討していくとしているが、現段階における具体的な考え方を教えて欲しい。
- 庶務課長（草野智文君） 現在6つの調理場を運営しており、うち4つが市直営、2つが調理業務の民間委託となっている。小中学校再編のタイミングで調理場も再編し、将来的には民間委託または指定管理とした1つの調理場にとすることを想定している。再編までの間は、市の調理員の定年や退職する人数を踏まえ、それぞれ4つの市直営調理場を段階的に集約・民間委託することを検討している。
- 総務課課長補佐政策推進室長（小柳貴之君） （「その他」として、）「中学生異文化体験・国内英語研修について」を報告する。  
ロシアとの交流が途絶えている状況下においても中学生の異文化体験・外国語研修を可能とするため、10月7日(土)と10月8日(日)の1泊2日で福島県のブリティッシュヒルズ（イギリス文化を体験できる宿泊施設）を会場とした国内研修を実施する予定である。事前に市内中学生8名を募集し、7名が参加を希望している。費用は1人当たり総額3万円程であり、国際交流協会が一部負担することで参加者は1万円の負担となる。
- 委員（乙川智子君） 募集定員8名のところ7名が参加するということは、定員に達しなかったということか。
- 総務課課長補佐政策推進室長（小柳貴之君） お見込みのとおりである。
- 社会教育課課長補佐図書館長（細貝秀樹君） （「その他」として、）「図書館バックヤードツアーについて」を報告する。  
令和5年9月30日(土)、図書館バックヤードツアーを開催した。午前の部（10:30～11:30）は親子4組（10名）、午後の部（13:30～14:30）は親子2組（6名）から参加いただいた。普段は閲覧できない貴重な書物、立ち入りが制限されている場所などを見学した。図書館には様々な役割があり、市民の知る自由を保障する機関であることを再認識してもらうことを目的とした。参加者からは、迫力ある戦時中の新聞を目の当たりにして感動した、また是非参加したいなどの感想をいただいている。
- 委員（乙川智子君） 本の整理期間を利用した良い取り組みであると思う。午前の部、午後の部ともに1時間で終了することができたのか。
- 社会教育課課長補佐図書館長（細貝秀樹君） 参加者数が少なかったため、次回開催に向けてアピールの仕方を再考したい。ただし、参加者は説明に大変興味深く耳を傾けており、多くの質問もいただいたため15分程オーバーした。
- 委員（太田正純君） 新しい取り組みを評価したい。加茂紙を用いたしおりを参加者へプレゼントしたことは良いことだと思う。様々な場面で加茂紙をアピールして欲しい。

- 社会教育課長民俗資料館長（有本幸雄君）（「その他」として、）「集落支援員の委嘱について」を報告する。

国の制度を活用し、10月1日付で鶴巻由加里氏を集落支援員として委嘱した。鶴巻氏は伝統和紙の復活を志し、加茂紙漉場で紙の生産、冬鳥越スキーガーデンで原料（楮）の栽培に取り組んでいる。その経験を活かし、主に七谷地区の方々と意見交換を重ね、地域の課題解決及び活性化に尽力していただく予定である。七谷地区住民の方々に周知するとともに、具体的な活動内容等について関係者と協議を重ねている。

〔議案審議〕

- 教育長（山川雅巳君）「第29号議案 加茂文化会館審議会委員の委嘱について」を上程する。
- 社会教育課長民俗資料館長（有本幸雄君）一議案説明（委員1名の交代）一
- 教育長（山川雅巳君）質問等ございませんか。
- 委員（藤田和子君）指定管理者と審議会委員の関連性について説明を求める。
- 社会教育課長民俗資料館長（有本幸雄君）指定管理者制度とは、地方公共団体に代わって公の施設の管理を代行させることで、多様化・高度化する市民ニーズへの効率的・効果的な対応を図ることとされている。有識者で構成する審議会は、会館の管理運営に関する意見を聴取するため教育委員会が設置しているものである。審議会からの意見を指定管理者による文化会館の運営・管理に反映させるための重要な機会である。
- 教育長（山川雅巳君）他に質問等ございませんか。  
一異議なし一
- 教育長（山川雅巳君）「第29号議案 加茂文化会館審議会委員の委嘱について」は議案どおり決定する。

〔次期定例教育委員会期日の決定について〕

- 庶務課長（草野智文君）（別紙 行事予定により）説明。  
一異議なし一
- 教育長（山川雅巳君）教育委員会11月定例会は11月6日(月)午後1時30分から決定する。

〔その他〕

- 教育長（山川雅巳君）全体を通して何かございませんか。  
一なし一

〔閉会の宣言〕

- 教育長（山川雅巳君）令和5年加茂市教育委員会10月定例会の閉会を宣言する。



午後3時30分 閉会

会議録作成者

庶務課課長補佐 長 澤 敦

この会議録が正当であることを証し、新潟県加茂市教育委員会会議規則（昭和63年教育委員会規則第5号）第32条第3項の規定により署名する。

加茂市教育委員会教育長

山川 雅己

加茂市教育委員会委員

藤田 和子